

# シラバス

授 業 科 目	調剤(H18～)・調剤学、臨床薬剤学(～H17)		
(英 文 名)	Dispensing Pharmacy and Pharmaceutical Health Care ・ Clinical pharmaceuticals		
担 当 教 員	吉富博則 他		
単 位 数 (期 別)	△2(後)(H18～) ・2(前)、1(後)(～H17)	対 象 学 生	3P(H18～) ・各3P <sub>s</sub> ,3P <sub>y</sub> (～H17)

## ■授業のねらい・概要■

薬剤師の基本的な業務である処方せん調剤を行うためには、医薬品の薬効と副作用の十分な理解、治療効果を最大に発揮させ製剤の特長、適切な薬用量と用法、他の薬物との相互作用等についての知識が必要となる。この授業では、調剤を正確に実施するために必要な、処方せん授受から薬剤交付までの基本的な知識、技能について習得することを目標とする。

また、医療チームの構成や役割、問題指向型システムと SOAP 形式での患者記録についても概説する。【C15 (2)、D1 (1)、(2)、(4)】

## ■授業(学習)の到達目標■

- 1 調剤業務とは何か説明できる。
- 2 処方せんの法的位置づけと機能について説明できる。
- 3 処方せんの種類、特徴、必要記載事項について説明できる。
- 4 調剤を法的根拠に基づいて説明できる。
- 5 不適切な処方せん例について、その理由を説明できる。
- 6 代表的な処方せん例の鑑査における注意点を説明できる。
- 7 代表的な医薬品の用法・用量および投与計画について説明できる。
- 8 代表的な医薬品について相互作用を列挙できる。
- 9 疑義照会の流れを説明できる。
- 10 代表的な医薬品について相互作用を列挙できる。
- 11 医療チームの構成や各構成員の役割、連携と責任体制を説明できる。
- 12 薬剤師業務の中で起こりやすい事故事例を列挙し、その原因を説明できる。
- 13 誤りを生じやすい投薬例を列挙できる。
- 14 誤りを生じやすい調剤例を列挙できる。
- 15 問題志向型システム (POS) を説明できる。
- 16 SOAP などの形式で患者記録を作成できる。
- 17 注射剤調剤の概念・流れについて説明できる。
- 18 注射剤の処方せんの特徴と記載内容について説明できる。
- 19 抗悪性腫瘍薬の注射剤調剤について説明できる。

## ■回数ごとの授業内容■

- |                         |                                   |
|-------------------------|-----------------------------------|
| 1 序論：調剤業務とは何か (宇野)      | 11 調剤ミスと調剤過誤、誤りを生じやすい投薬例、調剤例 (佐藤) |
| 2 処方せんの法的意義、処方箋の形式 (宇野) | 12 問題志向型システム (POS) と SOAP (佐藤)    |
| 3 薬用量と服用法 (佐藤)          | 13 注射剤調剤の概念・流れ (五郎丸)              |
| 4 処方せん鑑査 (佐藤)           |                                   |

# シラバス

- 5 調剤時の疑問点と医師への疑義照会のあり方（吉富）
- 6 薬物相互作用の考え方（吉富）
- 7 調剤学的薬物相互作用が考えられる処方せんへの対処（吉富）
- 8 生物薬剤学的相互作用（吸収）が考えられる処方せんへの対処（吉富）
- 9 生物薬剤学的相互作用（代謝と排泄）が考えられる処方せんへの対処（吉富）
- 10 医療チームの構成（佐藤）
- 14 注射剤の処方せんの特徴と記載内容（五郎丸）
- 15 抗悪性腫瘍薬の注射剤調剤（江藤）

---

## ■成績評価の方法・基準■

---

試験

---

## ■使用テキスト■

---

「調剤学総論」 堀岡 正義 著 （南山堂） ISBN4-525-77226-3 C3047

---

## ■参 考 書■

---

なし

オフィス・アワー (授業内容等の質問・相談日)
----------------------------

随時
----

# シラバス

(使用テキスト注文書)

注)すべての項目をご記入下さい。

書名	調剤学総論
著者名	堀岡正義
出版社名	南山堂
ISBN・ISSN	ISBN4-525-77226-3 C3047
予想部数	150